

第50回 真庭市地域公共交通會議分科会次第

日時：令和4年8月29日（月）

午前 10 時 30 分～

場所：真庭市役所本庁舎 2F 大会議室(2)

1 開 会

2 分科会長あいさつ

3 議題

協議事項

- (1) 真庭市コミュニティバス運行車両整備計画（令和4年度変更案）について…資料 1 別添 1

(2) まにわくん枝線の見直しと『チョイソコ』の活用について…資料 2

(3) コミュニティバスまにわくん『運賃無料 DAY』（仮称）の実施について…資料 3

(4) やませみ号（鏡野町）の運行内容の変更について…資料 4

4 その他

5 閉会

真庭市コミュニティバス運行車両整備計画 (令和4年度変更案)について



資料1

1 真庭市コミュニティバス運行車両整備計画とは

真庭市におけるコミュニティバス車両の更新基準や、年度別の更新計画を定めた計画のこと、通称を「車両更新計画」という。（計画は非公表）

計画期間は5年間とするが、社会情勢や人口の動向を反映させるため、毎年検証するものとしている。

2 令和4年度の変更の概要と理由

現行計画が今年度で満了することから、新たに5年計画を策定するもの。

新計画の計画期間：令和5年～9年

3 主な変更点

①向こう5年の更新計画について記載

▼年度別更新台数（R5～9）

更新年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
更新内容	中和ルート 15人定員1台 勝山追分ルート 10人定員1台 二川IBSルート 10人定員1台	落合2地区 10人定員1台 上福田湯原ルート 10人定員1台	蒜山久世ルート 59人定員1台 落合4地区 10人定員1台	北房久世ルート 59人定員1台 北房ルート 15人定員1台	中曾関金ルート 29人定員1台 北房ルート 29人定員1台

②EVバス（電気バス）についての記載を追加

近年、官民問わず、EVバスを導入する運行事業者が増加しつつある。真庭市としても、ゼロカーボンシティまにわ（2050年二酸化炭素排出実質ゼロを目指す）の実現のため、コミュニティバス運行車両のEV化に努める。

注）車両配備についての今後の方針

以下の事項については、不確定要素が多く、今後の進捗状況等についても予測できない部分があることから、更新計画を反映できない。したがって、本計画も1年ごとに検証したうえで、随時反映していくこととする。

※共助による地域の“あし”構築事業について

- ・地域のコミュニティ力がキーとなる事業であり、構築できる地域は限定的である。
- ・「タクシー事業者との共存」という観点が必要不可欠であり、事業者との調整には時間が必要である。

※AIを活用した新たな公共交通の仕組みの検討について

- ・令和6年度を目途に構築を検討しているが、住民への説明周知、事業者との調整等が必要である。

※EV車両について

- ・性能や価格についても未知数の部分が多い。
- ・更新基準についても、必ずしも現行の基準をそのまま適用することが適切であるとは限らない。

4 その他

- ・毎年度、現行車両の稼働状況や修理頻度を確認し、計画を見直す。
- ・購入する車両は、利用者の状況を考慮し、より適正な定員のものに変更する。
- ・上記と同時に、車両定員規模が利用状況に適するよう車両の配置も見直す。



○まにわくん枝線の見直しの方向性

交通施策の考え方

【※R3改定 真庭市地域交通計画に基づく】

★理念基本:市民生活を支え、市民とともに未来を創る地域公共交通

基本目標①市民生活を支える

- ②地域と共に守り育てる
- ③人にやさしく未来へつなぐ

利便性の向上

- 幹線:公共施設等の再編によるダイヤ調整、IT技術等の導入検討
- 枝線:利用者のニーズに沿った運行の検討(但し運行基準との整合)

運行需要に見合った路線設置

- 枝線沿線の潜在利用者数を把握し、必要な運行基準を検討
- 増減若しくは廃止も踏まえた路線の再編

運行経費の削減

- 基準に沿った枝線再編による運行経費の抑制
- 枝線に変わる交通の構築による運行経費の軽減

交通事業者との連携

- まにわくんとタクシーとの役割検討
- まにわくん運行委託の継続と地域運行への協力

地域コミュニティの活用

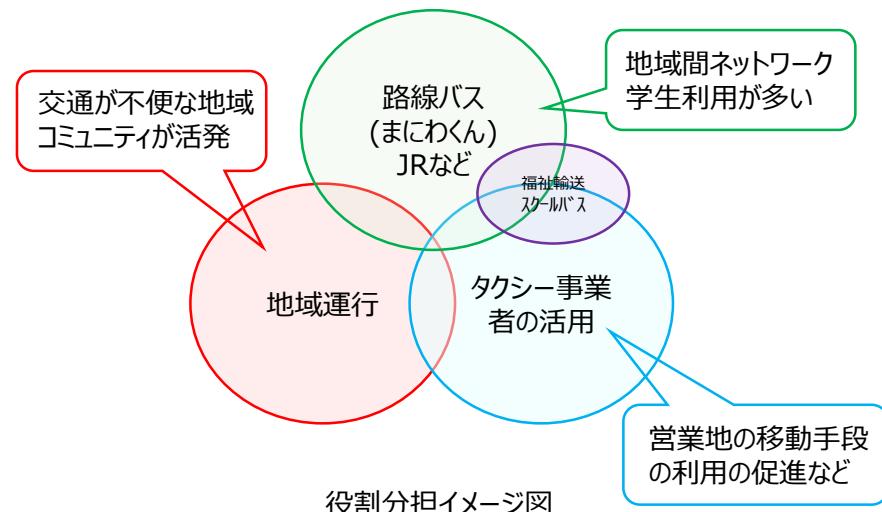
- 地域内の交通課題の把握とコミュニティの構築
- 担い手の掘り起こし、地域経済、見守り等の地域の活性化

まにわくん：過剰な路線配置 → 利用者の減少 → ニーズの変化(トアートーリ) → 運行委託費の高騰



●「まにわくん」枝線の課題

利用者の主は高齢者であり、減少傾向の利用者数とは逆に、運行委託料は高騰しており、公費負担も増額となっているため、枝線全体の基準やその必要性が課題となって来ている。



○『チョイソコ』の提案

健康増進のための乗り合い送迎サービス

チョイソコまで、ごいっしょに

取り組みのご案内

AISIN
株式会社 アイシン

Ver.2021.7.12

アイシンのご紹介

トヨタグループ
TOYOTA

株式会社豊田自動織機製作所
トヨタ自動車株式会社
株式会社ジェイテクト
愛知製鋼株式会社
トヨタ車体株式会社
トヨタ車体東日本株式会社
豊田通商株式会社
株式会社アイシン
豊田合成株式会社
株式会社デンソー
トヨタ紡織株式会社
東和不動産株式会社
株式会社豊田中央研究所
(トヨタグループ13社)

社名：株式会社アイシン
設立：1965年8月31日 2021年4月1日にアイシン精機とアイシン・エイ・ダブリュが経営統合
本社：愛知県刈谷市朝日町2丁目1番地
資本金：売上：資本金450億円 / 売上3兆5257億円（2021年3月期）
連結子会社：208社（国内75社 海外133社）
従業員：連結119,535人/単独37,644人
事業内容：自動車部品、エネルギー・住生活関連製品の製造・販売
新規事業創出の取り組みとして2018年にチョイソコを創業

自動車部品（機関・車体・情報電子）
エネルギー・住宅関連機器
バーチャルモビリティ ILY-AI
カーナビゲーション



企画の背景

“買い物弱者”とも呼ばれる 交通難民の増加

＜主な要因＞

- ・商業集積場所の変動
- ・既存公共交通の衰退
- ・高齢者運転免許自主返納の促進

昨今の痛ましい高齢者事故報道増加
により運転免許返納が加速化

過疎地域だけではなく
都市部でも課題に

既存の交通（オンデマンド型含む）に課題
あり新しい交通のしくみが必要



名称とデザイン

「チョイソコ」の名称は「チヨイス」と「コース」を組み合わせた造語であり、「コースを選ぶことで外出したいと思うようになる」期待を込めて命名。近距離移動を表す「チョイソコまで」という意味も含まれている。高齢者へのヒアリングを行い、呼びやすさ、覚えやすさ、親しみやすさに配慮し決定。

自治体名入り



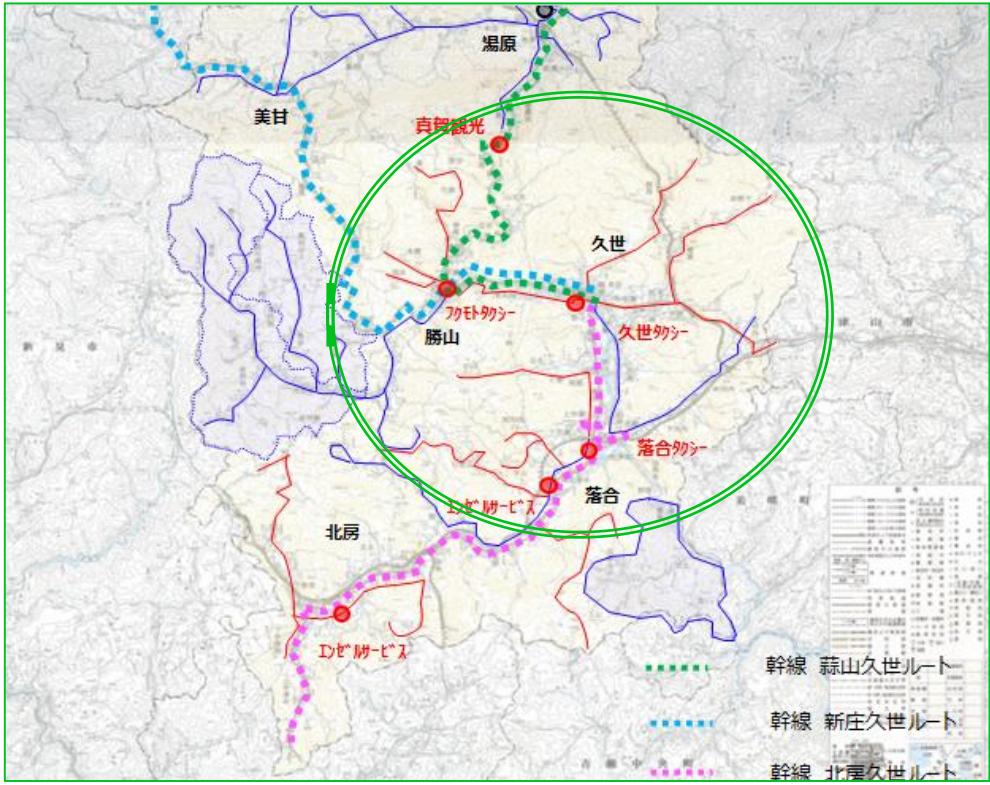
車両デザイン



※タクシーカーでも実施は可能



○久世・勝山・落合地域等における委託費の状況等



中心市街地での過剰な路線（赤線）に関しては、事業者の活用による新しい仕組みを構築し、「まにわくん」からの転換を検討する場合、必要な経費については詳細を調査する必要がある。

現状において、過剰な路線となっているのは、久世・勝山・落合の3地域で9路線（別所・日野上、上山、杉山、西河内、樺東・余野、樺西・三阪、勝山・追分、星山、福谷・寺河内）あるが、それ以外の路線も含め、利用者数が多く、高校生も利用する勝山・追分線を除き、**11路線を全て転換すると想定した場合、委託費約1,500万円の転換対象費となる。**

なお、北房は勝山高校の通学として継続、富原・月田は地域の足への転換を検討している。

○転換検討路線の委託額(R3)

該当11路線(別所・日野上、上山、杉山、久世・河内、西河内、樺東・余野、樺西・三阪、星山、神退・月田、福谷・寺河内)

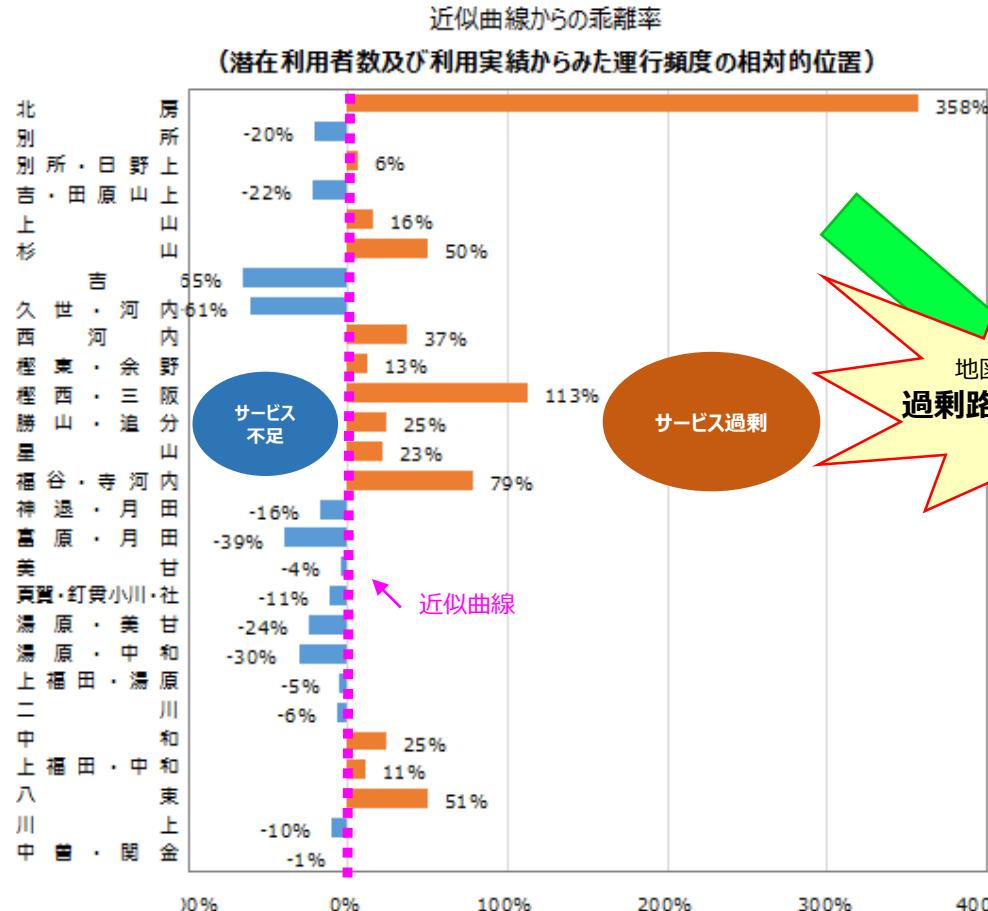
委託合計額（距離按分）：15,504,140円

■真庭市コミュニティバス 枝線ルート別検討表							
地域	R2					R3	
	ルート名	運行曜日	運行形態	便数/日	利用者数	人数/運行予定便数	合計金額(距離按分)
北房	北房	月～金	一部予約	7便	424人	0.26人	3,867,800円
落合	別所※	月・水・金	予約	2便	277人	0.94人	1,371,510円
	別所・日野上	火・木・土	予約	2便	380人	1.29人	1,664,099円
	上山	火・木・土	予約	2便	285人	0.97人	1,691,529円
	杉山	月・水・金	予約	2便	196人	0.66人	813,763円
	久世・河内※	火・木・土	定時定路線	2便	1,130人	3.84人	3,300,767円
	西河内	月	予約	2便	44人	0.47人	304,732円
	津田地域	月・水・金	予約	2便	-	-	1,679,230円
久世	樺東・余野	月～土	定時定路線	4便	627人	1.07人	1,557,180円
	樺西・三阪	月～土	定時定路線	4便	481人	0.81人	1,903,220円
	勝山・追分	月～金	定時定路線	9便	2,570人	1.17人	5,190,600円
勝山	星山	月・金	予約	2便	212人	1.09人	813,960円
	神退・月田※	火・木	予約	2便	464人	2.39人	1,436,400円
	富原月田	月～金	予約	2便	1,494人	3.05人	5,075,280円
	福谷・寺河内	月・金	予約	2便	71人	0.37人	646,980円

※別所ルート、久世・河内ルート及び神退・月田ルートは運行頻度と利用頻度の乖離率はマイナス

○『チョイソコ』事業の導入エリアについて

運行・利用状況の分析

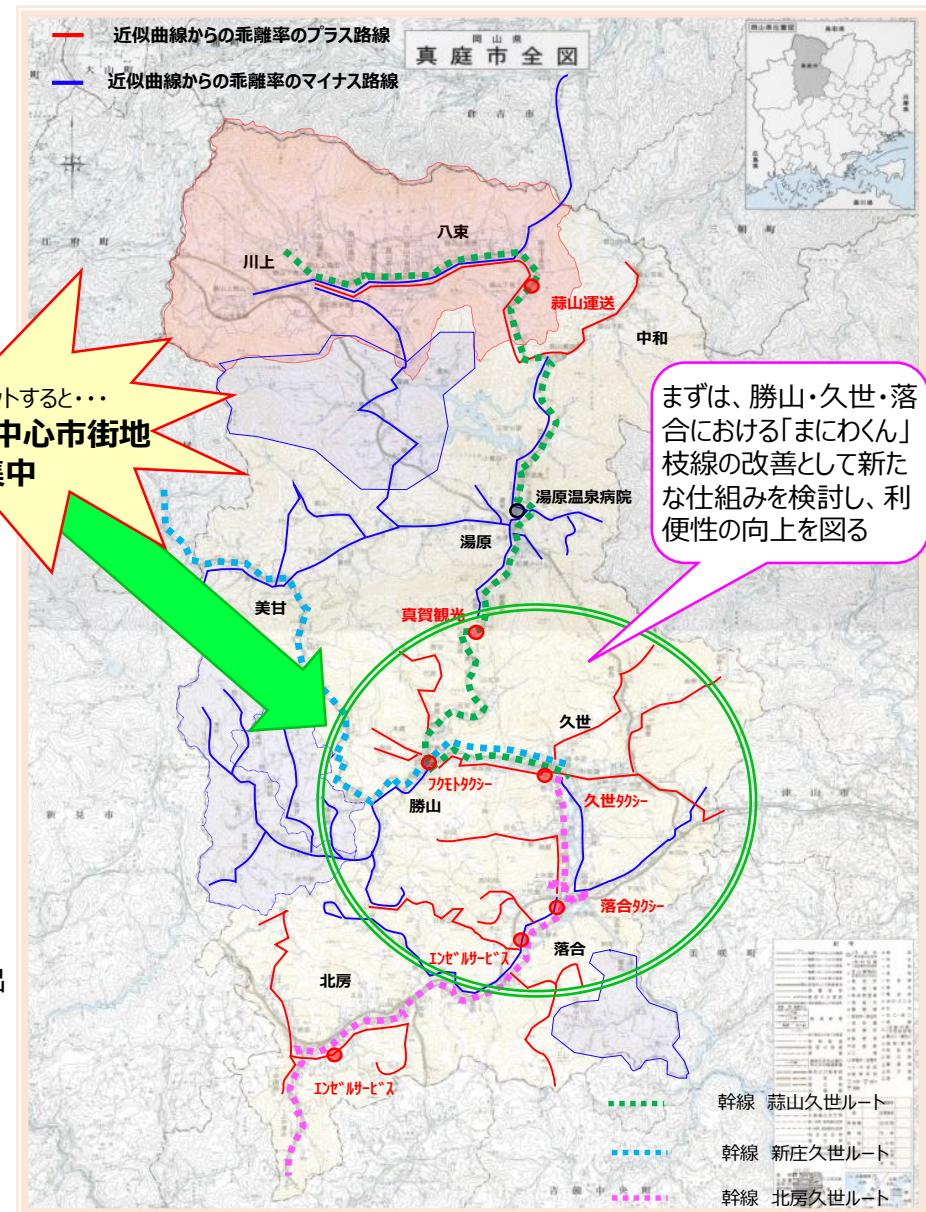


上図はいずれも現在の枝線について、沿線人口等で推計した潜在利用者数から導き出した運行及び利用頻度のグラフです。

枝線の運行・利用状況を比較するため、各路線の令和元年度の年間運行便数、年間利用者数をそれぞれ潜在利用者数で割った数値を運行頻度指数、利用頻度指数として各路線の状況を示しています。

グラフに示す近似曲線より右側は、潜在利用者数及び利用実績に対して相対的に運行が過剰、また近似曲線より左側は、相対的に運行が不足している。

枝線別運行状態図



○『チョイソコ』の検討とサービスの仕組みについて

○新たな仕組みの検討について

●検討の目的

勝山・久世・落合の中心市街地における「まにわくん」枝線の利用状況の低迷を鑑み、また市民のニーズに対応した、利便性が向上する仕組みへ転換していくことを目的として検討する

●検討の方向性

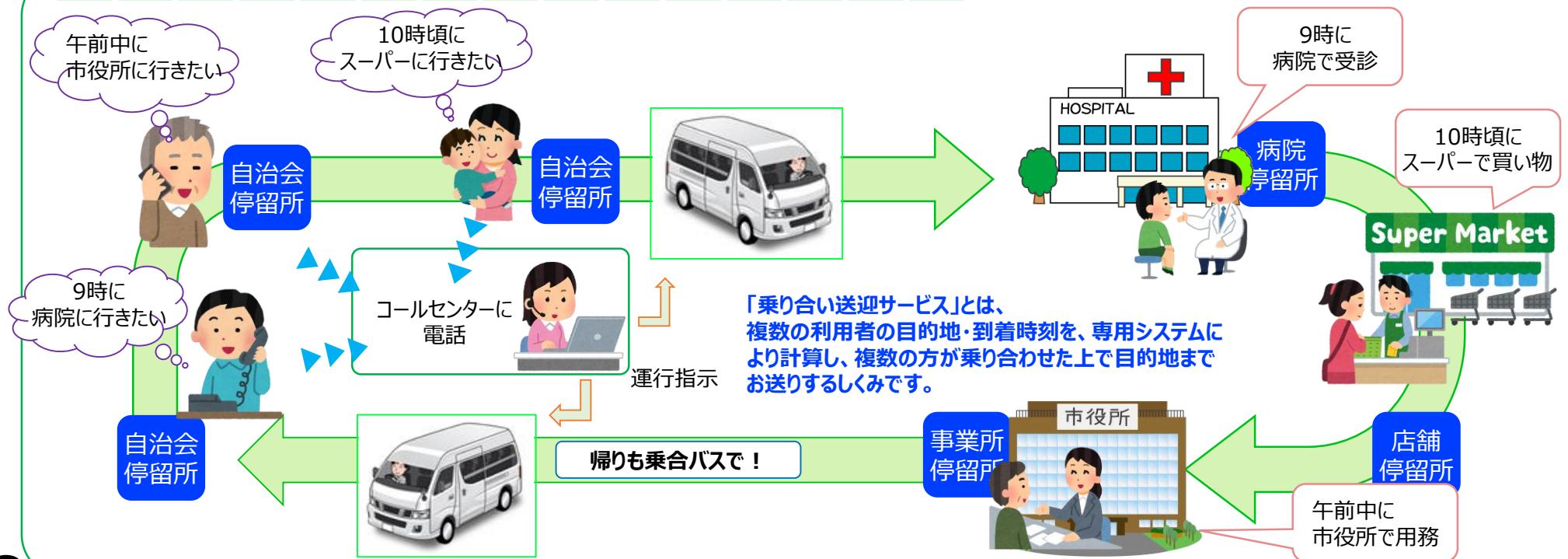
AI技術を活用した配車等のシステムが全国で広がりを見せており、いずれも運行の効率化を図る物が多い。全国的に言われる運転手不足を解消し、効率よく運行することで利用者の増加を図り、利益を確保していくという乗り合いの仕組みが必要。

先進事例の一つとして、運行エリアでスポンサーを募り、宣伝効果を付与しながら乗り合い送迎サービスを実施し、地域で支えていく仕組みがある。利便性の高い交通を地域で支える観点は、交通計画にも即しているため、この仕組みを研究・検討していく。

●検討の体制 多彩な主体と検討チームを立ち上げ

チョイソコ検討チーム	有限会社フクモトタクシー
市内タクシー事業者	有限会社エンゼルサービス
	有限会社落合タクシー
自動車販売店	岡山ダイハツ販売株式会社
	岡山トヨタ自動車株式会社
システム運営	株式会社アイシン
保険会社	損害保険ジャパン株式会社岡山支店
行政	真庭市

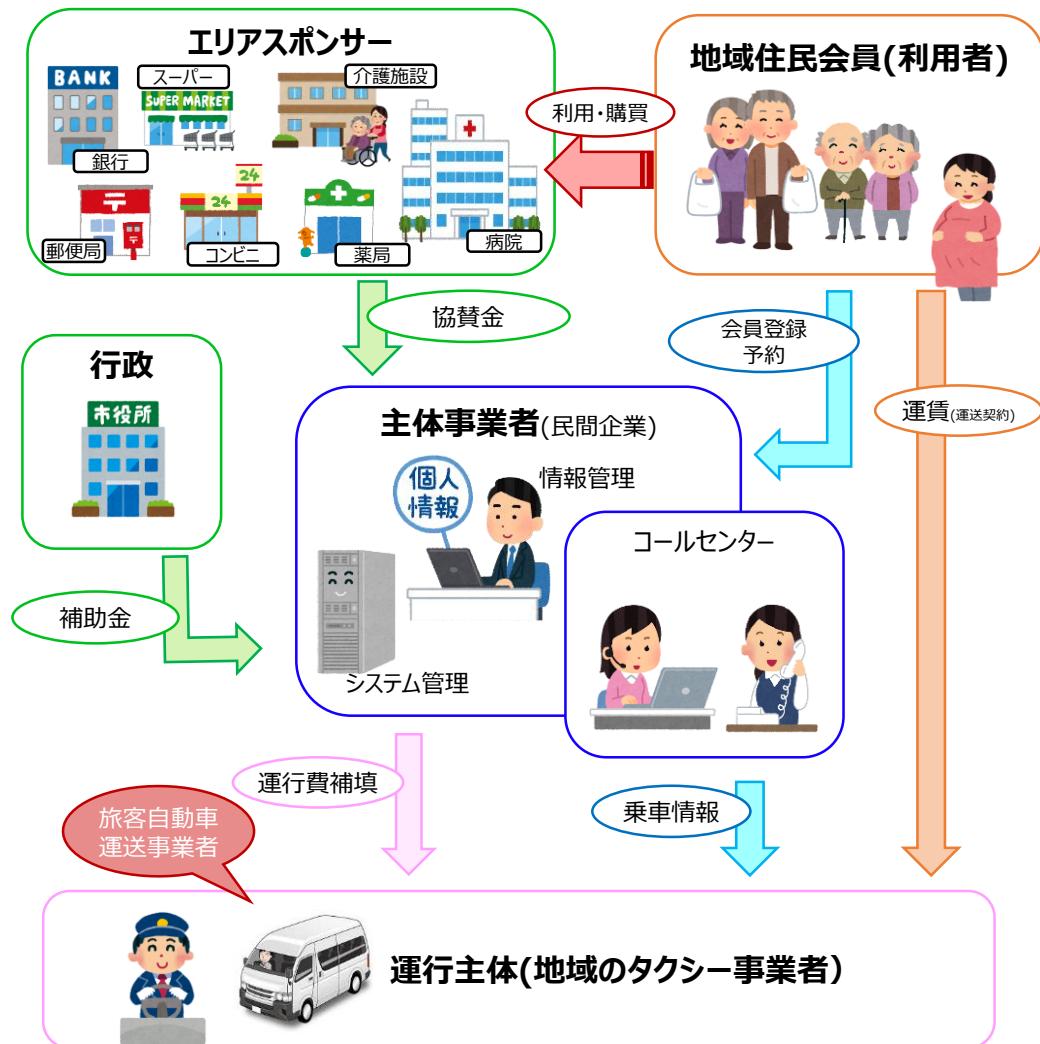
乗り合い送迎サービスのしくみ(案)



○『チョイソコ』の構造イメージとスケジュール(案)について

事業構造のイメージ(案)

民間企業が事業主体となり、地域のタクシー会社と提携し運行。



スケジュール(案)

令和4年度

	R4.4	R4.6	R4.9	R4.10	R5.3
事業者		検討チームの構築	運行内容検討	運行内容検討・事業者調整 システム導入準備	
市			運行内容検討 議会報告 財源の検討	内容・補助検討 議会報告・交通会議報告	

令和5年度

	R5.4	R5.7	R.5.10	R6.1	R6.3	R6.4
事業者	許認可申請 事業者調整	一部実証運行	全部実証運行			
市	一部住民説明	住民説明・利用者周知	会員募集	実証運行精査 運行内容調整 議会報告	支援	運行開始 枝線委託契約期間の終了

コミュニティバスまにわくん『運賃無料DAY』 (仮称)の実施について



資料3

★協議事項

下記の内容でまにわくんの運賃を無料とするため、公共交通会議での審議前に事前協議を行うもの。

※9月書面開催予定の第36回真庭市地域公共交通会議にて審議予定

1 概要

【内容】 まにわくんの運賃を無料とすることにより、利用促進に繋げるもので、『まにわくん運賃無料DAY』（仮称）として実施する。

【実施日時】 計6回、6日間を無料とする。

- ①9月25日（日） ②10月30日（日） ③11月3日（木・祝）
④11月20日（日） ⑤11月27日（日） ⑥12月25日（日）

※岡山市主催『路線バス・路面電車 運賃無料DAY』実施日。真庭市においても、中鉄北部バス 高速勝山岡山線 が無料となる。

※①9月25日（日）は、蒜山にて「海山マルシェ」が開催。

【対象ルート】 幹線3ルート

2 効果

①利用者の増加

運賃無料というインセンティブを付与することにより、利用者増に繋げる。

②公共交通に対する意識醸成

普段、バスに接する機会のない人の利用に繋げ、公共交通に対する意識を醸成する。

③消費の活性化

海山マルシェの集客UPに貢献し、消費の活性化を実現。

参考事例：岡山市主催

『路線バス・路面電車 運賃無料DAY』について

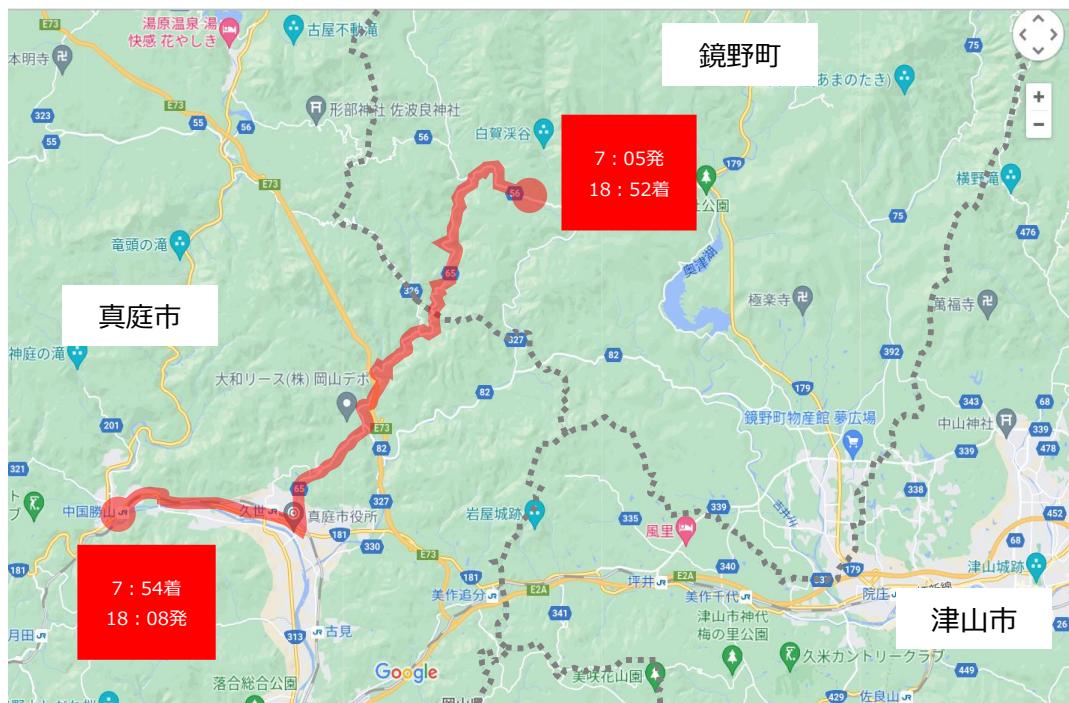
- ・全8回の実施日において、岡山市内を運行する路線バスと路面電車の全ての便を無料化する取り組み。市内外問わず、誰でも無料となる。

- ・昨年度同じ事業を実施した際、高速勝山岡山線が定員オーバーになり、一部乗車できない人が出るなど、利用者からは好評。

やませみ号（鏡野町）の運行内容の変更について

資料4

鏡野町で運行されている乗合タクシー「やませみ号」（富～中国勝山駅間）について、令和4年11月1日から運行内容に変更が生じる。このことについて、真庭市地域公共交通会議での合意が必要であり、本分科会において事前協議を行うもの。



- 民間バス路線の運行廃止により、平成19年度より運行を開始した。
- 富地域から真庭市方面への通勤・通学の足として利用されてきた。
- 乗車運賃 500円（一律）
- 運行 中田石油店
- 富地域内は、電話予約すると自宅付近まで送迎可能（路線とは異なる谷の利用者向け）。
- 真庭市樺西地域の方も、ごくまれに利用される。
- 乗車人数は、ピーク時(H22)で年間3,001人で、徐々に減少し、令和3年度は39人となった。
- 富地域の高校生のうち、真庭市内の高校へ通学する生徒は現在3名いるが、全員が家族の送迎で通学している（家族の都合が悪いときはバスを利用する可能性あり）。
- 令和3年度の利用目的は、真庭市内への通院が主で、朝便を利用し帰りはタクシーを利用。
- 富地域では、平成17年の合併以降、県道湯原奥津線の拡幅や中学校統合により、生活圏を津山市方面に置く傾向があるが、依然として真庭市内へ通院や買い物へ行く方が多い。
- **令和4年11月1日より改編予定**

【検討事項】

- | | |
|------|---------------------------------|
| 検討 1 | デマンド化
(予約制…需要<デマンド>に応じて運行する) |
| 検討 2 | 運賃の見直し |
| 検討 3 | 路線を一部変更 |
| 検討 4 | 正午過ぎ頃の迎え便の増設 |

検討 1 デマンド化

令和3年度以降、当路線については主たる利用者である高校生の利用がないため、そのほとんどを空で運行している状態である。

毎年の町民アンケートでも、空のバスを走らせるこの無駄を指摘されており、デマンド化を検討する。

検討 2 運賃の見直し（運賃一律 500円）

運賃について、片道 500円、往復で1,000円となり、高くて毎日は利用できないという意見が過去にあったため、利用促進を図る目的で、運賃の見直しを検討する。

運賃案 300円

[参考]

- ① 津山方面へ行く「津山・富共同バス」は、距離制の運賃体系をとっており、距離だけを見て参考値とすると以下のとおりとなる。

富振興センター	→ (経由) 真庭市役所	540円	約19km
	→ (終点) 中国勝山駅	630円	約25km

- ② 町営バスや上齋原マルナカ線は、一律200円の運賃となっている

- ③ 富～箱線、上齋原マルナカ線 を乗り継いで町内の病院やスーパーに行く場合は、片道300円

検討 3 路線を一部変更

バス停「西口」（まにわ整形前）まで延線 → 朝便 8：20頃到着

追加路線だけを見ると、まにわくん「勝山・追分ルート」「樫西・三坂ルート」と重なるが、以下のとおり競合することはないと想定している。

- ◆運賃設定が異なる（高い）ので、真庭市内で乗る方はいない
- ◆樫西・三坂ルートのダイヤとは時間帯が異なる

※ 落合病院・金田病院へは、まにわくんを利用してアクセス可能



検討 4 正午過ぎ頃の迎え便の増設

運行会社の人員配置の都合を考慮し、午後3時頃の迎え便を検討する

※審議については、9月に書面開催予定の第36回真庭市地域公共交通会議において行います。後日改めて開催通知をお送りいたします。

別添 1

真庭市コミュニティバス運行車両整備計画（令和4年変更 案）

（令和5年度～令和9年度）

真庭市生活環境部くらし安全課

真庭市コミュニティバス運行車両整備計画（令和4年変更案）

1 計画策定の趣旨

昨今の地方公共団体を取り巻く環境は、少子高齢化による人口減少や自家用車の普及によって公共交通の利用者が減少傾向にある社会情勢にある中、国の諸制度の大幅な改革により大きく変動しており、真庭市においても厳しい環境下での行財政運営を余儀なくされている。

このような情勢の中で、コミュニティバスは市民の生活を支える社会インフラとして、持続可能な公共交通でなければならない。国民の交通に対する基本的な需要が適切に充足されることを基本に、車の免許を持たない市内の高齢者や高校生にとってはコミュニティバスが重要な移動手段となっており、通院や通学、買い物等の生活に不可欠な交通手段であるため、市民視点と財政状況に配意しつつ、計画的に運行車両の整備を図っていくことが必要である。

公共交通の持続可能性を確保し、かつ、ドアツードアのニーズに対応するため、現在、共助による地域の“あし”構築事業によるデマンド運行を実施しているほか、AIを活用した新たな公共交通の仕組みを検討している。これらの事業の進捗状況に応じて、本計画についても、適宜カスタマイズを行っていく。

また、近年、官民間わず、EVバスを導入する事例が少しずつ増加している。真庭市としても、ゼロカーボンシティまにわ（2050年二酸化炭素排出実質ゼロを目指す）の実現のため、コミュニティバス運行車両のEV化に努める必要がある。

なお、公共交通を取り巻く社会の潮流は、環境問題、少子高齢社会、まちづくりの方向性に等に伴って変化していくと予想されるが、市の人口動向、地理的条件、社会環境等について再確認し、運行の基本的な考え方及び具体的な施策を定め、車両の整備に関する計画を策定するものである。

2 計画の期間

計画の期間は、令和5年度から令和9年度までの5年間とし、1年毎に検証するものとする。

3 整備の基本目標

- ①公共交通の責務を踏まえ、市民の視点にたった整備を推進する。
- ②厳しい財政事情のもと、内部努力を最優先に改革を進め、効率的、効果的な車両の整備を行う。
- ③限られた車両で地域交通を充実させていくため、関連施策や民間事業者との連携を高め、必要な需要に柔軟に対応することのできる体制作りに努める。
- ④高齢者や障害者等の交通弱者に配慮した車両の整備に努める。
- ⑤ゼロカーボンシティまにわの実現を目指し、EVバスの導入に努める。

4 計画に際して考慮すべき状況等

基本目標達成のためには、利用動向や場合によってはアンケート調査を実施するなど、市民のニーズを的確に把握するとともに、地域運行、タクシー助成、スクールバスや福祉移送サービス等各種施策との整合を図りながら、厳しい財政状況を踏まえ、将来動向を定めなければならない。

今後、地域運行の拡充やタクシー助成の構築によるコミュニティバス各ルートの転換等が図られる場合においても計画の見直しを行い、適切な車両更新に務めるものとする。

5 車両の更新基準（目安）

（1）運行車両の現状

真庭市的人口は、令和2年国勢調査によると42,725人、世帯は15,845世帯で、平成27年国勢調査結果人口と比較すると3,399人、7.4%減少している。

市の面積 828.43 平方キロメートルに対する人口密度は 51.6 人/平方キロで、県下では新庄村、西粟倉村、鏡野町、新見市、吉備中央町に次いで低い山間の過疎地域である。

令和 4 年 4 月 1 日現在、真庭市コミュニティバスの運行体制は幹線 3 ルートと、枝線 28 ルートの計 31 ルートがあり、運行車両は定員 59~55 人 3 台、定員 33~25 人 5 台、定員 15~14 人 7 台、定員 10~8 人 8 台の計 23 台で対応している。

また、これらの車両の車検時や故障時等の予備登録車として、車両 6 台を保有している。

車両更新については、現在、以下の基準を更新検討の目安とし、安全性阻害の度合いや修理頻度や費用等から継続的な運行に適するかを検討し、更新対象車両とするか否かの判断を行っている。

【車両更新基準（1） 登録年数および走行距離（目安）】

①登録から **15 年以上を経過**した車両

②走行距離が以下の設定値を超過した車両

定員 30 人以上の車両：**80 万キロメートル**

定員 16 人以上の車両：**50 万キロメートル**

定員 15 人以下の車両：**30 万キロメートル**

現在の運行形態をこのまま 5 年間継続するとして想定すると、令和 9 年度までに走行距離が更新目安に達する車両は、定員 50 人以上 2 台、定員 50~16 人 2 台、定員 15 人以下 10 台の**計 14 台**となる。

表 1 運行車両一覧 (R4.4.1 現在)

No.	車種	定員	車両番号	ルート名	登録年	経過年	累計走行距離(4/1時点)	年度毎予定距離	耐用距離到達年度見込及び到達時走行距離見込
1	レインボーⅡ	59	1258	北房久世 1	H27	7	530,781	81,600	R7 870,690
2	レインボーⅡ	59	1259	蒜山久世 1	H27	7	541,878	82,203	R7 857,181
3	レインボーⅡ	56	1487	新庄久世	H30	4	298,611	76,713	R10 835,602
4	ポンチョ	32	1673	蒜山久世 2	R3	1	36,734	76,212	R14 875,066
5	ポンチョ	33	1647	北房久世 2	R2	2	59,389	42,592	R16 826,045
6	ポンチョ	33	1571	蒜山久世 3	R1	3	211,879	76,212	R11 821,575
7	ローザ	29	1798	中曾閑金	H29	5	226,778	59,300	R8 523,278
8	ハイエース	14	1477	中和	H25	9	305,644	50,600	R4 305,644
9	ハイエース	15	1215	美甘	H21	13	370,781	24,800	R3
	ハイエース	10	新車	美甘	R4	0	0	24,800	R16 322,400
10	ハイエース	15	1350	北房	H23	11	213,286	27,000	R7 321,286
11	三菱	29	328	北房	H13	21	200,078	36,000	H28
12	ハイエース	15	1051	落合 2 地区	H20	14	271,840	22,000	R5 315,840
13	ハイエース	15	1216	落合 4 地区	H21	13	244,723	27,000	R6 325,723
14	ハイエース	15	1052	勝山追分等	H20	14	322,843	49,000	R3
15	ハイエース	15	1053	八束川上	H26	8	192,473	14,000	R11 304,473
	ハイエース	10	新車	八束川上	R4	0	0	14,000	R18 210,000
16	ハイエース	10	8290	真賀湯原等	R3	1	6,442	31,800	R13 324,442
17	ハイエース	15	1523	上福田湯原	H26	8	466,840	61,800	R3
	ハイエース	15	1053	上福田湯原	H20	14	192,473	61,800	R5 316,073

18	ハイエース	10	2898	富原・月田	H26	8	139,112	15,000	R11	259,112
19	ハイエース	10	8082	勝山3地区	H25	9	143,022	9,000	R10	206,022
20	アウトランダー	5	6341	二川デマンド	R2	2	8,774	485	R5	返却
21	ハイエース	10	9956	二川デマンド	R2	2	7,891	2,630	R16	34,191
22	ハイエース	10	9957	津田コミュニティ	R2	2	5,391	2,700	R16	32,391
23	レジアス	8	424	二川BS	H10	24		15,000	R3	
	平均車齢					8.7	走行計	969,947		
24	レインボー	57	829	予備車	H10	23				
25	メルファ	55	865	予備車	H22	12				
26	リエッセ	29	1219	予備車	H21	13				
28	ハイエース	15	1155	予備車	H20	14				
29	ハイエース	9	3009	予備車	H6	27				
30	リエッセⅡ	29	1369	予備車	H24	10				
31	リエッセⅡ	29	1370	予備車	H24	10				

…今後更新基準に該当する車両

…既に更新基準に該当している車両

(2) 車両更新の考え方

車両更新を考えるうえでの要素は、**運行車両の老朽状況（安全性・経済性）**、**提供すべきサービスレベルと車両機能の状況（バリアフリー対策等）**が想定され、これらの要素から車両を更新する際には、単純に前と同じ定員や性能の車両を整備するのではなく、運行全体の利便性と効率性等から設定された運行計画に基づき、各運行ルートの車両定員と乗車人数のバランスを勘案し整備を行う必要がある。

こうしたことから車両更新計画は次期運行計画と一体のものであり、一定の車両更新の判断要素をもとに、運行計画との整合性を図りつつ更新内容を設定し、**運行計画を見直す毎に車両更新計画も見直していかなければならない**。

車両更新の際は、前述の車両更新基準（1）（登録年数および走行距離）に基づいて検討することを基本とするが、検討における総合的な判断のなかで、以下の項目のいずれかに該当する場合は更新対象車両とする。

【車両更新基準（2） 以下の項目のいずれかに該当する場合は更新対象車両とする】

- A 運行ルートにおける冬季の積雪や凍結等の路面状況に対して安全性能が不十分な場合
- B 主に高齢者等が使用すると想定されるルート及び便において以下の全てに該当する場合
 - ・定員 15 人以下の車両
 - ・主な乗降口となるドアが手動の車両
 - ・主な乗降口に手すりが設置されていない車両

(3) 令和4年度更新車両及び車両配備の具体的検討

- ・表2において計画期間中に更新基準に該当する車両は全体で**2台**が該当（予備車を除く）
- ・更新検討の目安に基づき登録年数の長い車両及び走行距離超過車両を中心に、安全性の確保と維持経費を改善する。

①**美甘ルートの車両 No.9 ハイエース 15 人定員(1215)を更新**

②**上福田湯原ルートの車両 No.16 ハイエース 14 人定員(1523)を更新し、八束川上ルートへ変更**

③**八束川上ルートの車両 No.14 ハイエース 15 人定員(1053)を上福田湯原ルートへ変更**

④美甘ルートの車両(1215)及び上福田湯原ルートの車両(1523)は予備車へ（1215は久世、1523は

蒜山配置)

(4) 令和5年度以降の更新車両及び車両配備の具体的検討

- ・表2において令和5年度以降に更新基準に該当する車両は全体で11台が該当（予備車を除く）
- ・更新検討の目安に基づき登録年数の長い車両及び走行距離超過車両を中心に、安全性の確保と維持経費の軽減を図る。
- ・保有する全車両の修理頻度状況や運行計画を勘案した上で、修理頻度の高い車両や既存の古い予備車両を処分することを条件に、新たな予備車両として保管するか、そのまま廃車とするかを見極める。
- ・修理頻度では幹線の59人定員2台と55人定員1台及び29人定員1台において高い状況
- ・利用者数の状況に応じて、更新車両のダウンサイジング化を実施

○令和5年度

- ①中和ルートの車両 No.8 ハイエース 14人定員(1477)の更新
- ②勝山追分ルート等の車両 No.14 ハイエース 15人定員(1052)の更新
- ③二川 BS ルートの車両 No.23 レジアス 8人定員(424)の更新

- ④勝山追分ルート等の車両(1052)及び中和ルートの車両(1477)を予備車へ（1052は久世、1477は蒜山配備）
- ⑤予備車(1215)(1523)を払下げ、二川 BS ルートの車両(424)及び予備車(3009)を廃車
- ⑥二川地域ルートの車両(6341)をリース契約が終了するため返還

○令和6年度

- ①落合2地区の車両 No.12 ハイエース 15人定員(1051)の更新
- ②上福田湯原ルートの車両 No.17 ハイエース 15人定員(1053)の更新

- ③落合2地区の車両(1051)、上福田湯原ルートの車両(1053)を予備車へ（1051は久世、1053は蒜山配備）
- ④予備車の車両(1052)(1477)を払下げ

○令和7年度

- ①幹線蒜山久世ルート1の車両 No.2 レインボーⅡ 59人定員(1259)の更新
 - ②落合4地区の車両 No.13 ハイエース 15人定員(1216)の更新
- ③幹線蒜山久世ルート1の車両(1259)、落合4地区の車両(1216)を予備車へ（1259は久世、1216は蒜山配備）
- ④予備車の車両2台(865)(1053)を払下げ

○令和8年度

- ①幹線北房久世ルート1の車両 No.1 レインボーⅡ 59人定員(1258)の更新
 - ②北房ルートの車両 No.10 ハイエース 15人定員(1350)の更新
- ③幹線北房久世ルート1の車両(1258)、北房ルートの車両(1350)を予備車へ（1258、1350は久世配置）
- ④予備車(1051)(1219)を払下げ、予備車(829)を廃車

○令和9年度

- ①中曾根金ルートの車両 No.7 ローザ 29人定員(1798)の更新
 - ②北房ルートの車両 No.11 三菱 29人定員(328)の更新
- ③中曾根金ルートの車両(1798)を予備車へ（1798は蒜山配備）
- ④北房ルートの車両(328)を払下げ

表2 計画期間内における更新要素該当の状況（R5以降更新計画＜R4運行計画での整理＞）

No.	車種	定員	車両番号	ルート名	R5年度		R6年度		R7年度		R8年度		R9年度	
					(1)	(2)	(1)	(2)	(1)	(2)	(1)	(2)	(1)	(2)
1	レインボーⅡ	59	1258	北房久世1					②		R8 更新			
2	レインボーⅡ	59	1259	蒜山久世1						R7 更新				
3	レインボーⅡ	56	1487	新庄久世										
4	ポンチョ	33	1673	蒜山久世2										
5	ポンチョ	33	1647	北房久世2										
6	ポンチョ	33	1571	蒜山久世3										
7	ローザ	29	1798	中曾閑金							②		R9 更新	
8	ハイエース	14	1477	中和	R5 更新		R6 払下げ							
9	ハイエース	10	新	美甘										
10	ハイエース	15	1350	北房					②		R8 更新			
11	三菱	29	328	北房								R9 更新		
12	ハイエース	15	1051	落合2地区	①②		R6 更新				R8 払下げ			
13	ハイエース	15	1216	落合4地区			①②		R7 更新					
14	ハイエース	15	1052	勝山追分等	R5 更新		R6 払下げ							
15	ハイエース	10	新	八束川上										
16	ハイエース	10	8290	真賀湯原等										
17	ハイエース	15	1053	上福田湯原	②		R6 更新	R7 払下げ						
18	ハイエース	10	2892	富原・月田										
19	ハイエース	10	8082	勝山3地区										
20	アウトランダー	5	6341	二川地域	R5返還									
21	ハイエース	10	9956	二川地域										
22	ハイエース	10	9957	津田地域										
23	レジアス	8	424	二川B S	R5 更新									
24	レインボー	55	829	予備車							R8 廃車			
25	メルファ	55	865	予備車					R7 払下げ					
26	リエッセ	29	1219	予備車						R8 払下げ				
27	リエッセⅡ	29	1370	予備車								①		
29	ハイエース	9	3009	予備車	R5 廃車									
30	リエッセⅡ	29	1369	予備車								R9 払下げ		
31	ハイエース	15	1215	予備車	R5 払下げ									
32	ハイエース	14	1523	予備車	R5 払下げ									
EV車両					毎年度、導入に向けて検討を行う。									

注) 車両配備についての今後の方針

以下の事項については、不確定要素が多く、今後の進捗状況等についても予測できない部分があることから、本計画も1年ごとに検証したうえで、随時変更していくこととする。

※共助による地域の“あし”構築事業について

- ・地域のコミュニティ力がキーとなる事業であり、構築できる地域は限定的である。
- ・「タクシー事業者との共存」という観点が必要不可欠であり、事業者との調整には時間が必要である。

※AIを活用した新たな公共交通の仕組みの検討について

- ・令和6年度を目途に構築を検討しているが、住民への説明周知、事業者との調整等が必要である。

※EV車両について

- ・性能や価格については、まだまだ未知数の部分が多い。
- ・更新基準についても、必ずしも現行の基準をそのまま適用することが適切であるとは限らない。

6 年度別車両更新計画

計画期間内の年度別車両更新計画は表4のとおりとする。

表3 年度別車両更新計画

更新年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
更新内容	中和ルート 15人定員1台 勝山・追分ルート 10人定員1台 二川BSルート 10人定員1台	落合2地区 10人定員1台 上福田・湯原ルート 10人定員1台	蒜山・久世ルート 59人定員1台 落合4地区 10人定員1台	北房・久世ルート 59人定員1台 北房ルート 10人定員1台	中曾・関金ルート 29人定員1台 北房ルート（勝山方面） 29人定員1台

※令和5年度以降の車両更新の判断は車両の状況（修理頻度等）で判断する。

車両更新経過図 (R4~R9)

<更新基準：①登録から15年以上②30人超80万km、16人超50万km、15人以下30万km>

